

セカンドスクールに向けて その4 「信濃大町の巻」

バスは安曇野 I.C.を出てさらに一般道を北に進んでいきます。白馬村までの途中、南北に細長い松本盆地の一番奥に位置するのが「信濃大町」です。黒部ダム・立山黒部アルペンルートの玄関口として知られ、西側には 3000m 級の北アルプスが聳えています。また、北部には仁科三湖（木崎湖・中綱湖・青木湖）があり、高瀬川、農具川などが街中を流れ、風光明媚であるとともに、雄大な山々からの恵み、生活に欠かせない豊富な「水」が生まれるところです。江戸時代は「塩の道（千国街道）」の宿場町として栄え、街中には当時の面影を残す歴史的な風情が残っているところです。



町の中心には JR 大糸線の信濃大町駅があります。大糸線は松本駅と日本海側の糸魚川駅を結ぶ路線ですが、「大糸線」の名称は、「大町」と「糸魚川」からとられています。松本と糸魚川を結んでいるのに、なぜ「松糸線」ではないのかというと、松本駅から信濃大町駅の間は、大正 5 年に私鉄の信濃鉄道として開業し、その後、昭和の時代に信濃大町駅から糸魚川駅との間が大糸線として国により建設されたことに由来しています。信濃鉄道の部分は昭和 12 年に国有化されましたが、路線名はそのまま残ったというわけです。

信濃大町駅の駅前公園広場には、「♪春は名みの 風の寒さや」の一節で始まる有名な唱歌「早春賦」の歌碑と、作詞者である吉丸一昌氏のブロンズ像が建てられています。また、駅前扇沢方面行きバス停の付近には、旅館経営をする傍ら、山岳ガイド組織としては日本初のものとなった「大町登山案内人組合」を設立した登山家の百瀬慎太郎が記した「山を想えば人恋し、人を想えば山恋し」の碑文が刻まれた記念碑が建っています。

今回のセカンドスクールでは、この信濃大町駅の駅前公園を起点に、「信濃大町まちなかアドベンチャー」と称するクイズラリーを行います。

おおまちまちなかアドベンチャー

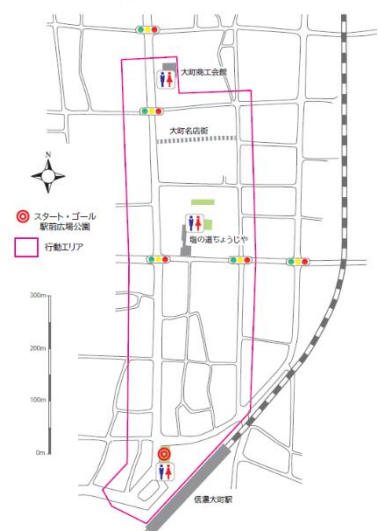
黒部ダム建設を支えたまち、信濃大町。
今は歩いている人も少ないけれど、かつては多くの人でにぎわう文化的なまちだったんだ。
班ごとに市街地を探索してクイズを解きながら、
この町の歴史や特徴、そして現在進行形の新しいまちづくりの取り組みを見つけよう。
武蔵野市と何が違うの？ 共通しているところはあるだろうか？



エリアマップには、20 か所のポイントが記載されており、班ごとに必ず訪れなければならないポイントがあります。その中から 2 人以上にお話を聞くことになっています。大町の「魅力」と「課題」を見つけるために、制限時間 95 分内、時間の許す限り多くのポイントを訪れ、訪問すればするほど町のことがよくわかるしくみになっています。

このクイズラリーの最終的な目標は、プロモーション会社「ASUNARO」として、地域の活性化を図るための「魅力」の PR 活動と、その「魅力」をもっと生かす「アイデア」を考えることにあります。自ら課題を見つけ、それを解決するためのアイデアをたくさん出すことがポイントです。

信濃大町まちなかアドベンチャーエリアマップ



町を知り、歴史を知り、人を知る。今回のクイズラリーは単なるゲームではありません。人の住む町、その町に息づいた人々の暮らしを目の当たりにして、その魅力を最大限に引き出すにはどうすればいいかを考える。この課題解決にあたる姿勢は、今後の学校生活、さらには自分が飛び込んでいくであろう社会生活に対して大きく役立つであろうと思われます。さあ、どんな「アイデア」が浮かんでくるでしょうか。楽しみですね。